



西横野小通信

学校教育目標 「学ぶ子」「助け合う子」「元気な子」

第18号

令和7年1月31日

発行責任者 新井 茂樹

TEL 393-1127

まもなく節分・立春！！

あっという間に1月が過ぎてしまい、まもなく立春になります。残り2ヶ月、寒さに負けないように今年度のまとめをして、新しい年度に向けた準備をしていけたらと思います。

【書き損じはがき】

児童会の子どもたちが、21日(火)～24日(金)の登校の時に児童玄関に立って書き損じはがきを集めてくれました。196枚のはがきが集まりました。ありがとうございました。



—— 2月の行事等の予定 ——

3日(月) 5校時一斉下校	15日(土)～21日(金) 学びアップ週間
4日(火) どんぐりの会(読み聞かせ) 4年社会科見学	
5日(水) 学校朝礼	13日(木) 委員会 二葉特別支援学校居住地交流
6日(木) 授業参観(高学年) 学級懇談会	14日(金) 縄跳び大会
7日(金) 授業参観(低学年) 学級懇談会	17日(月) スクールカウンセラー勤務日
6年薬物乱用防止教室	19日(水) 保健集会
PTA本部役員会議	20日(木) 学校運営協議会 クラブ
10日(月) スクールカウンセラー勤務日	21日(金) ようこそ先輩最終日
12日(水) 表彰集会	25日(火) どんぐりの会(読み聞かせ) 外国語海外交流授業
年長児と1年生の交流会 ようこそ先輩(～21日)	26日(水) 児童朝礼
	28日(金) 西小タイム

書き初め大会(1/中旬)

6年生浮世絵体験(1/15)	児童朝礼(1/15)
避難訓練(火災想定)(1/21)	児童会書き損じはがき集め(1/21～24)
4年高齢者・車いす体験(1/21)	3年生クラブ見学(1/23)

◆◆◆上毛新聞 子ども新聞◆◆◆ 一週刊風っ子(敬称略)

週刊風っ子12面『扉を開くNIE-投稿チャレンジ-』に本校の児童の投稿が掲載されました。1月12日(日)は、6年生の〇〇さんの文が載りました。〇〇さんは、『折り紙する人増えて』と題して折り紙の楽しさと魅力について書いていました。1月19日(日)は、6年生の〇〇くんの文が載りました。〇〇くんは、『日本のアニメ紹介したい』と題して日本のアニメの魅力や文化について書いていました。「校長先生のお話より」の掲示板に貼ってありますので、時間がある時にご覧ください。



6年 ○○

にししよう みんなのえがおで うめつくそう！
 わらいごえ あふれるクラス うれしいな
 一年 ○○
 たすけあおう なかよくしよう みんな友だち
 一年 ○○
 あなたはね かぞくやみんなの たからもの
 二年 ○○
 みとめ合い 助け合いの輪 広がって やさしいつばい
 二年 ○○
 平和な世界
 三年 ○○
 かけてあげよう おふとんみたい な やさしい言葉
 三年 ○○
 大事にしよう みんなの笑顔 みんなの意見
 四年 ○○
 ちよつと待って その言葉 立ち止まってから 考えよう
 四年 ○○
 人間は「人」と「人」が支え合う
 五年 ○○
 人権は「思い」と「思い」が支え合う
 五年 ○○
 おたがいに 信じて認める 「ありのまま」
 五年 ○○
 その言葉 ストップかけて 相手の気持ち考えよう
 六年 ○○
 「ありがとう」 みんなを繋ぐ 合言葉
 六年 ○○

「二番目の悪者」

六年 ○○

人権集会で校長先生が紹介してくれた本を読んだ。タイトルを見て、悪い人が二人いるのかな？それは誰なのかと興味を持った。読んでみたらみんな動物だった。動物の世界を人間界に例えている話だった。
 最初に読んだときに、一番悪い人は金のライオンだと思った。金のライオンは、ライバルであった銀のライオンをけ落とし、自分が権力者になろうとした。二番目に悪い人は、最初は銀のライオンだと思った。なんでそう思ったかと言うと、動物たちが銀のライオンの悪いうわさ話をしていたので、それを信じてしまったからだ。それと、銀のライオン自身も反論せずにそのままだった。

だけど、もう一回家で読み直してみると、銀のライオンは被害者だった。ではいったい二番目に悪い者は誰だったのか？そう疑問を持ちながら読み進めてみると、真実を確認せずにうわさ話を広めていった動物達であることに気がついた。金のライオンが仕組んだうその話をそのまま信じて、面白おかしく話を広げてしまい、そのあげく、何も罪のない立派な銀のライオンをおとしめてしまった。そして、一番悪い金のライオンが権力者になってしまった。

ぼくのクラスでも、うわさ話を聞いたことがある。それは、「わざと○○をした」「あの子はずるい、うらやましい」という話であった。それを聞いたとき、ぼくはとても嫌な気持ちになった。本人は、もつと辛い気持ちだったのだろう。でも、ぼくはその時、何もしてやれなかった。ただその話を聞いていただけだった。あの時本人に「大丈夫、心配することはないよ。」と声をかければよかった。そして、うわさ話をしていた人に「そんなうわさ話を流すのはよくないよ。」と言えればよかった。今はとても後悔している。

でもぼくには、そんな勇氣はなかった。もし言えば、ぼくが嫌われてしまふかもしれないと思ったからだ。自分の身を守ることにしか考えられなかった。正しいことが正しいと言えず、強い者に巻かれてしまう。ぼくもあの動物たちと同じだ。次は勇氣を持って言えるようになりたいし、真実かどうか分からない話を人とかわすことはやめたいと思った。

今の世の中、世界中で争い事や戦争が起きている。そしてそれぞれの立場からSNSで情報が発信されている。遠く離れていて正しい状況がわからないのに、それらの情報を信じている。この本の動物たちのように情報操作されてコントロールされているのかもしれない。

これからぼくは、情報があふれた社会の中で生きていかなければならない。その中で、自分自身がしっかり勉強して、真実を見極め、正しい判断ができるようになる必要があると感じた。そして、人を傷つけないようにするだけでなく、人を助けてあげられる優しい心をもった人になりたいと思った。

●●●表彰 (敬称略) ●●●

第19回安中市上毛かるた大会 高学年 団体 準優勝	6年	○○	○○	○○
令和6年度安中市児童生徒人権作文 優秀賞	6年	○○		
令和6年度安中市児童生徒人権標語 優秀賞	1年	○○	○○	2年 ○○ ○○
	3年	○○	○○	4年 ○○ ○○
	5年	○○	○○	6年 ○○ ○○
令和6年度安中市児童生徒人権ポスター 優秀賞	6年	○○		